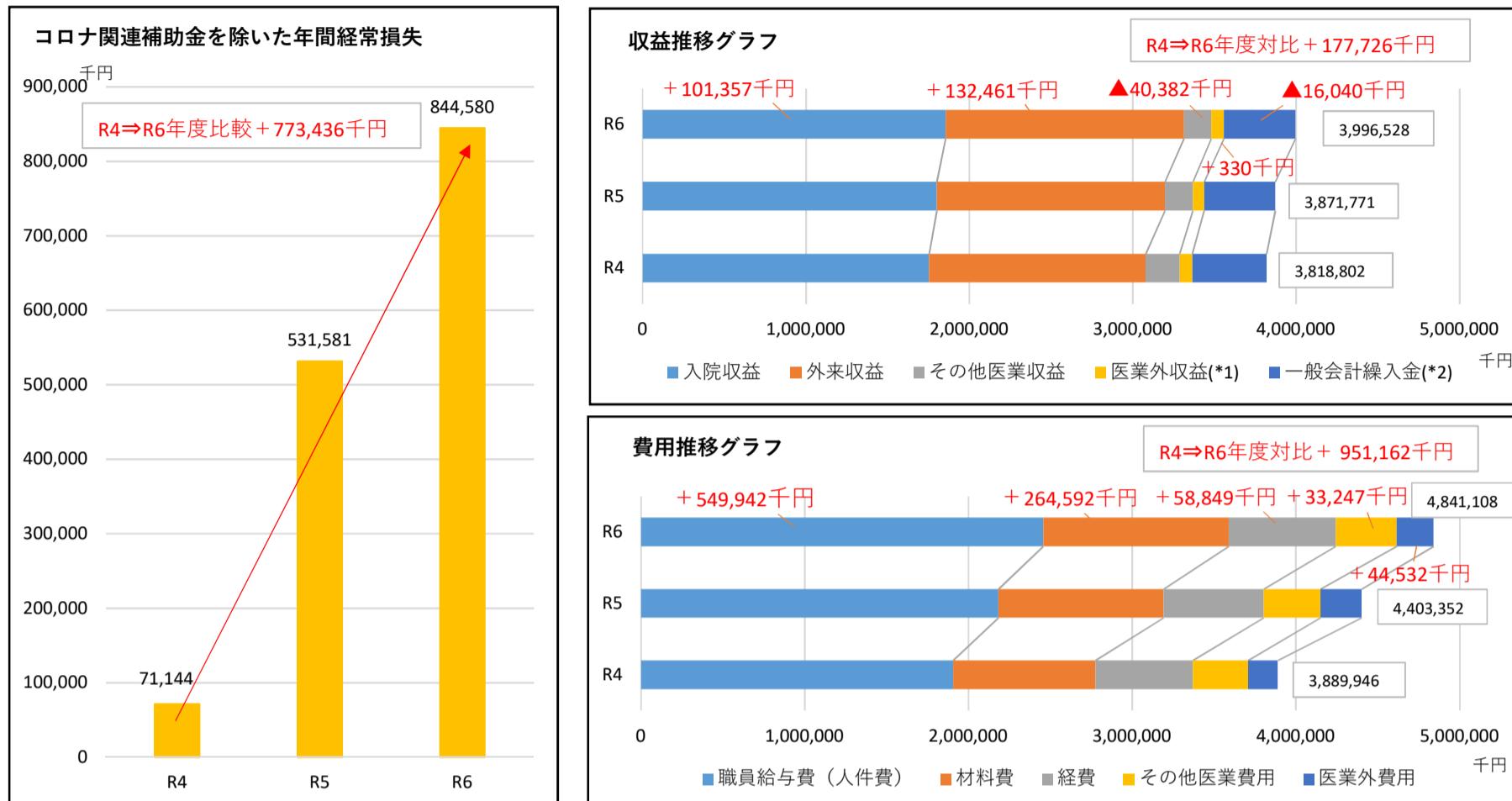


令和4年度から令和6年度における収支の推移について

○病院収入の基本となる入院及び外来収益においては、整形外科の手術増やリハビリテーションの増加、神経難病症例の増加などに伴って一人あたりの診療単価が向上している一方、患者数については、新型コロナ患者の減少、泌尿器科常勤医師の撤退、診療報酬改定の影響に伴う在院日数の短縮などによって減少傾向にある。加えて外来では、コロナ禍以降における市民の受診行動の変容によって患者数の過減が顕著となり、入院・外来を合わせた収益は約2.3億円の小幅な伸びに留まっている。

○費用面では、増床（一般病床36床）や急性期医療体制の強化に伴う看護師等の採用のほか、人事院勧告に伴うベースアップなどによって職員給与費が約5.5億円の大幅な増となり、材料費においても、高額医薬品の使用増や物価高騰による値上げの影響を受けて約2.6億円増加している。その他にも、労務単価の上昇等に伴う経費（主に委託料）の増、各種設備投資に係る減価償却費の増、工事費及び医療機器・高額医薬品の支出増に伴う控除対象外消費税（医業外費用）なども軒並み増加している。これらの結果、近年の病院事業収支は収益増を費用の増加が大きく上回る「増収減益」の状況が続いている。



(1) 主要経営指標

	R4	R5	R6	増減	理由
一日平均入院患者数 (人)	84.9	88.5	85.0	△	コロナ患者の減、泌尿器科常勤医師の撤退、平均在院日数の短縮などにより、R6年度は減少傾向
一日平均外来患者数 (人)	335.4	331.4	323.5	△	コロナ患者の減、泌尿器科常勤医師の撤退、人口減少・コロナ禍以降の受診行動の変容により過減傾向
一日1人平均入院単価 (円)	56,610	55,639	59,791	↗	整形外科の手術増、リハビリテーションの増など
一日1人平均外来単価 (円)	13,492	14,384	15,383	↗	神経難病等の高額医薬品使用症例の増など
常勤職員数 (人)	169	190	205	↗	増床などに伴う看護師等の採用増
職員給与費比率 (対医業収益)	57.1%	63.7%	69.2%	↗	増床などに伴う看護師等の採用増、ベースアップによる増
材料費比率 (対医業収益)	26.0%	29.4%	31.9%	↗	高額医薬品の使用増、物価高騰による値上げ

(2) 収支決算状況

	(単位: 千円)			理由	
	R4	R5	R6	増減	
入院収益	1,754,073	1,801,302	1,855,430	↗	診療単価の向上に伴う収益増
外来収益	1,325,697	1,396,582	1,458,158	↗	診療単価の向上に伴う収益増
その他医業収益	207,998	170,406	167,616	△	コロナワクチン接種の減による公衆衛生活動収益の減
医業外収益 (*1)	76,326	69,980	76,656	↗	物価高騰対策支援金（県補助）等の増
一般会計繰入金 (*2)	454,708	433,501	438,668	⇒	市財政当局の査定により、毎年ほぼ同額
合計①	3,818,802	3,871,771	3,996,528		

*1 コロナ関連補助金（新型コロナウイルス感染症医療提供体制支援事業費補助金）を除く

*2 出資金を除く

	(単位: 千円)			理由	
	R4	R5	R6	増減	
職員給与費 (人件費)	1,907,657	2,183,750	2,457,599	↗	増床などに伴う看護師等の採用増、ベースアップ等による増
材料費	868,892	1,009,174	1,133,484	↗	高額医薬品の購入・材料費の高騰による増
経費	593,946	611,698	652,795	↗	委託料（労務単価）等の増、物価高騰による各経費の増
その他医業費用	338,393	345,766	371,640	↗	各種工事・機械購入による減価償却費の増
医業外費用	181,058	252,964	225,590	↗	材料費・工事等の増による控除外対象消費税の増
合計②	3,889,946	4,403,352	4,841,108		

【年間損失額①-② (コロナ関連補助金を除くネット値)】 (単位: 千円)

	R4	R5	R6	理由
年間経常損失	71,144	531,581	844,580	↗